Def. Doc # 762

極東國際軍事裁判所
亞米利加合衆國其他
對
荒木貞夫其他

宣誓供述書

松本烝治

自今供述ニ當リ我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ之ヲ別紙宣誓ヲ爲シタル上次ノ如ク供述致シマス

D.D.
#962

私、松本俊一ハ現在東京都世田谷区深澤町四丁目七三二番地ニ住ンデ居リマス。私ハ左ノ如キ經歷ヲ有シマス。

一、明治三十一年（一八九八年）三月九日、小形縣鶴岡市ニ生ル。
一、大正十一年（一九二二年）東京帝国大学法学部卒業。
一、〃　年　五月　南滿洲鉄道株式會社ニ入社。
一、昭和七年（一九三二年）六月　滿洲国法制局参事官。
一、昭和十年（一九三五年）四月　總務廳秘書處長。
一、昭和十二年（一九三七年）六月　總務廳法制處長。
一、昭和十三年（一九三八年）三月　参議府秘書官長
一、昭和十五年（一九四〇年）五月　總務廳次長。
一、昭和十八年（一九四三年）六月　賠償局長官。
一、昭和十九年（一九四四年）十月　大同学院長。

私ハ左經歷ノ示ス通リ滿洲國政府ニ於テ主トシテ法制関係ニ従事シテ居リマシタ、

基本法其他ニ就テ陳述致シマス。

一、帝制ニ付テ申述ベマス。

一九三三年三月九日溥儀氏ハ長春ニ於テ執政ニ就任、正式ニ満洲国ノ元首トナッタノデアリマスガ、執政ノ側近者タル鄭孝胥（初代国務總理）、羅振玉（後ニ監察院長）、胡嗣瑗（執政府内務處長ハ後ニ参議）等旧清朝ノ遺臣ハ執政ガ早ク皇帝ノ位ニ登ルコトヲ希望シ、且清朝ノ復辟ヲ夢見テヰタノデアリマス。併シ他方満洲ニ従来ヨリ執カリ有ッテヰタ所謂實力派ノ人々例ヘバ張景恵（初代参議府議長、後ニ總理）、馮式毅（初代民政總長、後ニ参議府議長）等ノ人々ハ、余リ斯ル順向ノ意思ハズ、特ニ清朝ノ復辟ト云フガ如キコトハ程々幣ヲ併ラフト云フノデ復辟思想ヲ排斥スル傾向ガ強カッタノデアリマス。然ルニ時日ノ経過ト共ニ此等實力派ノ人々モ帝制其物ニハ漸次賛意ヲ表スルヤウニナリマシタ。且執政ト云フガ如キ暫定的ナ感ヲ懐カセル名稱デハ國ノ基礎ガ何時迄モ定ラズ、政情ガ安定シナイト云フ客観的ナ情勢モアッタノデ、帝制ハ比較的早ク一九三四年三月一日ニ実現セラレマシタ。

併シ執政ノ側近者タル昔清朝ノ遺臣（前記ノ鄭、羅、胡等ノ人々）ガ望ハヤウナ復

LD
井912

歴史思想ハ一般ニハ容レラレナカツタノデアリマス。仍テ帝位継承法ナドモ第一代トシテソレ以上ニハ血統上溯ラナイヤウニ規定サレタノデアリマス。

又禅譲放伐ノ思想ハ之ヲ危険シテ血統主義ニ依ルコトトシ満洲国帝位ハ康德皇帝ノ男系子孫タル男子ニ永世之ヲ継承スベキ規定サレマシタ。

満洲国ハ組織法ニ規定セラレタ通リ、憲制国家デハナク、総テ国務ニ付テハ国務大臣ガ皇帝ヲ補弼シ其ノ責ニ任ズルモノデアリマスカラ皇帝ノ大権ハ皇帝ノ専断デ只今ニ行ハルルモノデハナイノデアリマス。又重要国務ニ付テハ参議府ニ諮詢シテソノ答申ニ基キ皇帝ハ之ヲ裁可シ初メテ外部ニ発セラルルノデ其ノ際国務總理大臣ハ毎週国務院會議ノ翌日皇帝ニ謁見シ国務院會議ノ議案ヲハジメトシテ其ノ他一般政務ニツキ奏聞上奏スルヲ例トシテヰマス。

二ヲ省略ニ付キ見ズルト國務總理大臣ハ毎週国務院會議ノ翌日皇帝ニ謁見シ国務院會議ノ議案ヲハジメトシテ其ノ他一般政務ニツキ奏聞上奏スルヲ例トシテヰマス。

又特ニ重要問題ニ付テハ予メ内奏シテ皇帝ノ内意ヲ伺フヲ例トシテヰマス。

参議院會議ハ同ジク民法、刑法ノ如キ法典ハ毎年ノ予算、文官令、武官令ノ如

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天ニ行ハレタノデアリマス。コレハ立憲国トシテ当然ノコトデアリマス。但シ重要ナ人事ニ関シテ意見ガアレバ其ノ時ニ意見ヲ述ベ得ルヤウニナツテ居リマシタ。

第八ハアメ国務總理大臣カラ皇帝ニ内奏シテ国務ヲ決定スルコトニナツテ居ルノデ皇帝ト満洲国デハ国務總理大臣ガ唯一人ノ国務大臣トシテ皇帝ノ補弼シタノノ責ヲ一身ニ負ヒ「皇帝」ノ旨ヲ奉シ各新大臣ヲ統督シ公務行政ノ機務ヲ掌理シテヰルノデアリマス。

三ハ公情ヨリ見テモ又国家ヲ造リ上ゲテ行ク上カラモ公務總理大臣ノ統制力ヲ強化シテ言フ必要ガアツタカラデアリマス。従ツテ法制上斯ノ規定ヲ設ケラレテ公務總理大臣ガ行政的ニ要点々々ヲ握ツテヰルノデナケレバ、ソノ統制力ヲ空文化スル虞ガアリマスノデ、人事ノ奏請権、予算、法制ノ審議権等ガ公務總理大臣ノ直接基礎トシテ此等ノ権限ヲ行使スル為ニ国務院ニ總務廳ヲ置キ公務總理大臣ガ直接機関トシタノデアリマス。併シ国務總理大臣ハ国政全般ニ亘ル責任者デアリマスカラ總務廳ノ業務ノミニ事会スルワケニ行カマセンデ別ニ總務長官ヲ置キ總務廳ヲ統轄シ国務總理大臣ヲ補佐スルコトトナツテ居マシタノ、總理長官ハ建国以来日本ガ当テ来タノデアリマスグ併シ之ハ関東軍ノ黙認ヲ得タレバ

日本ガ当テ承ノデアリマスガ、此ニ之ハ関東軍ノ要望ヲ容レ、閣議ニ於テ決定シタモノデアリマス。

就テハ国務總理大臣ヲ總裁トシ、其下ニ二部ヲ置カレルコトハアリマセウ。併シ之ハ飽迄要望デアリ、(四)ソレ故、各部大臣ハ国務總理大臣ノ統督ヲ承ケ、主管事務ヲ掌理スルモノデアリ、次長ハ之ガ補佐役デアリマス。各部大臣ハ建國以來滿系ガ之ニ當テ來テ居リマス。次長ハ建國當初ハ軍政部、民政部、財政部ノ三部ノミニ過ギナカレ何レモ滿系デアリマシタガ、ソノ後國政ガ追々複雜ニナリマシタノデ、先ヅ一九三二年六月外交部ニ初メテ日系ノ次長ガ出來、其後一九三六年以後漸次各部ニ日系次長ガ置カレルコトニナリマシタ。

次ニ行政事務ノ進メ方ノ情況ニ申述ベテ、各部大臣ト次長ノ関係ヲ説明申上ゲマス。

凡ソ行政事務ハ法令ノ制定及分課規定ニ依テ分担ガ定メラレテ居ルノデアリマスカラ、

一ツノ法案ガ成案ニルニハ先ヅ其ノ担当ノ社ニ於テ原案ヲ作成セラルルノデアリマス。次デ局(部)長カラ次長、大臣ト順々ニ上ニ上ッテ行クノデアリマスグ、其間関係箇所トヨリ人(委)員会議モシ会議モ開レルノデアリマス。ソシテ之体議ガ終レバ、次長カラ大臣ニ説明シテ異議ガ無イ時デ初メテ大臣ノ決裁ガ與ヘラレルノデアリマス。斯リテソノ案ガ部(委)員ナレバ其ノ儘公布サレルノデアルガ、若シ云何ガ効(委)員ナレバ更ニ総務廳ノ法制局ノ審議ニカケ、又豫算ヲ必要トスルモノデアレバ、主計處ニ廻サレ、ソコデ異議ガナケレバ、總務長官カラ次長會議ニ提出サレテ各次長ノ意見ヲ徴セラルルノデアリ、ソコヲ通過スレバ、国務總理大臣カラ国務院會議ニ提出セラレ、各部大臣ノ意見ヲ求メラルルノデアリマス。国務院會議ガ無事ニ通過スレバ、更ニ參議府ニ諮詢セラレルノデアリマス。

政ニ大臣ガ如ク様ナコトハ勿論アリマセン

ナッタ後ニ初メテ公布サルルノデアリマス。

ミルト、建国當時ヨリ大臣トナッタ満系要人例ヘバ、初代參議府議長デ後ニ總理ニ

ナッタ張景惠トカ民政部大臣減式毅トカ、財政部大臣熙治トカ云フ様ナ人々ハ總テ満洲

D.D.
#912
洲人ノ地ト人民ニ對シ誠カヲ有スル政治家デハアリマセンガ近代的ナ行政事務ニハ不慣

レノ為メ日系次長ト云フ行政事務ノ「エキスパート」ガ補佐スル必要ガアツタノデアリマス。併シ後ニハ大臣モ漸次行政事務ニモ慣レテ来タノデ自信ヲ以テ自己ノ意見ヲ積極的ニ発表スルヤウニナリマシタ。

(ロ) 国務院会議、次長会議、参議府会議ニ付キ申述ベマス。

国務院会議ハ国務院官制ニ依ツテ定メラレタル行政事務ノ連絡ヲ図ル会議デアツテ国務総理大臣ガ主宰シ、各部大臣総務長官等ガメンバートナツテヰル法制上ノ会議デアリマス。ソノ附議事項ハ官制ニ依ツテ列挙サレテ居リ、法律、勅令、予算、條約、簡任官ノ任命進退等ノ重要政務ハ皆此ノ会議ニ附議セラルルノデアリマス。私モ建国当初ハ法制局ノ参事官トシテ法案審査ノ為ニ時々ソノ会議ノ席ニ出サレ又一九四三年迄ハ総務廳次長トシテ此ノ会議ノ幹事ニ任ジ出サレタノデアリマス。

会議ノ幹事ハ議ノ動メヤスイノデハ会議ニ出席シテ議論ハ仲々活潑デ三五年以后ハ秘書長トシテ、又一九四〇年カラ一九四三年迄ハ総務廳次長トシテ此ノ会議ニ出席シマシタ。次長会議ハ事務的協議ノ為ニ行ハレテ居リマシタ。

詳細的議論ガ多カツタノデアリマス。次長会議ヲ通過シタ案ガ国務院会議デ審議サレ又訂正サレタリトキハ次回ノ次長会議ニソノ旨報告サレルノデアリマス。

次長会議ハ連絡国務大臣ガ主宰シ、各部ノ重要ナ事務ヲ相談シ合ツテヰタ

モノガ建國後第五項カラ毎週定例的ニ集ルコトニナリ、國務院會議ノ前日會議ノヤウナ形ニナリマシタ。コノ會議ハ官制ニ依ルモノデハナク、初ハ出席者モ一定シテ居リマセンデシタガ後ニ整理シテ總務長官ガ主宰シ總務廳各部ノ次長並ニ總務廳ノ參議長ヲ正式メンバートシ、其他説明ノ爲ニ必要ナ關係官ガ出席スルコトニナリマシタ。從テ日系ノミナラズ滿系モ居リ、議論ハ民族ヲ超越シテ極メテ活潑ニ行ハレテ居リマシタ。

參議府會議ハ組織法及參議府及制ニ基クモノデ皇帝ノ諮詢ニ奉答スル爲メ開カレルモノデアリマス。諮詢ガデアリマスカラ無ヲ條ニスルワケニハ行カヌノデアリマス議論ハ仲々活潑デ政府トシテハ參議府ヲ通過サセルノガ一苦勞デアリマシタ。本會議前ニ審査會議ヲ開クノデ問題ガアレバ一ツノ時ニ政府ト打合セテ本會議迄ニハ大体通過スルヤウニハナツテ居リマシタガ、中ニハ例ヘバ実気業法其他ノ如ク本會議デ否通ヤウニ無ナ修正ヲ加ヘタリ、又ドウシテモ通過サセナケレバナラヌモノハ政府ヨリ一二諮詢ノ撤回ヲ請フ改メテ奏請スレト云フ風ニシテ居リマシタ。參議府會議ニテ修正シテ答申スルコトハ諮詢ト矛盾スルカラデアリマス。

日系官吏ノ地位ニ付テ申述ベマス。

D.D. #962 (六)

滿洲国ハ、滿、漢、蒙、日、鮮ノ五族協和ノ国柄デアリ、日系モ滿系モ固ヨリ国ノ構成分子デアリマス。国籍法ハ未ダ公布セラレテ居リマセンデシタガ建国宣言ニハソノ趣旨ヲ明ニシテヰマス。又一九四〇年二月民籍法ガ制定セラレテ滿洲国民タルモノノ民籍ガ定メラレタノデアリマス。之ニ依レバ国カラ永住モノデモ日本朝鮮台湾カラ来タモノデモ単ナル旅行者デナク、居住ノ目的ヲ以テ来タモノハ齊シク滿洲国人民トシテ登録セラルヽノデアリマス。ソシテコノ五族ハ官吏トナル資格ニ於テモ亦平等デアツテ齊シク文官令ノ定ハル考試ニ合格シタモノハ官吏トナリ得ルノデアリマス。但、試験ハ成績ノミニ依ルトキハ初ハドウシテモ日系ノ方ガ多クナルノデ日滿ノ比率上ノ均衡ヲ失スル虞レガアリマスカラ日系ノ占メ得ベキ定位及定員ヲ定メテ日系ガ多クナルコトヲ防ギ、且試験ノ点数モ滿系ノ方ガ日系ヨリモ余程甘クシテ採用スル様ニシテ居リマシタ。

ヒロ 滿系ノ定位ニ付テ中央官廳デハ企画的事務ガ多イ関係上滿系官吏デハソノ知識経驗上適任者ガ得ラレナイ實狀デアッタ爲 比較的日系ノ「ポスト」ガ多ク地方官廳ハ直接民衆ニ接スル行政事務ガ多イノデ日系ハ數ノ大多數ヲ滿系ガ占メテ居ルノデアリマス。

中央官廳ニ於ケル滿系官吏ガ比較的仕事ニ消極的デアッタ事ハ一ツハ近代的行政事務 殊ニ專門的ニ知識経驗ガ甚ナイ事、新シイ官吏層ハ未ダ余リ育ッテ居ラナカッタコト、他ノ一ツノ理由ハ滿系官吏ノ伝統的性格トシテ「事勿レ主義」ノ責任回避思想」ガ伴ヒ脱却シ切レナカッタ事ニ在ッタノデス

(2)

夫レデモ又々経驗ヲ得、又若イ優秀ナ者ガ育ッテ来ルニツレテ漸次積極的ニナリ殊ニ内政方面ニハ自ラ企画立案シ積極的ニ之ヲ実施スルト云フ傾向ガ強クナッテ来マシタ。

政府ハ中央官廳ニ於ケル滿系官吏ノ積極的活動ヲ期待シ、若イ優秀ナ官吏ヲ育成スルタメニ或ハ大同学院、院ニ滿系ノ学生ヲ多數收容訓練シ或ハ建國大學、法政大学等ヲ設ケテ若イ滿系ノ教育ニ努力シテ居リマシタ。

地方官廳デハ始メカラ満系官吏ガ大多数ヲ占メ日系ハ限ラレタ企画部門又ハ満系デハドウシテモ適任者ガ併ラレナイ部門例ヘバ技術部門等ニハ第一線ノ直接民衆ニ接スル行政部門デハ殆ド全部ガ満系官吏ヲ以テ占メラレテ来マシタ。

技術部門モ、主ガ農林、工、医、教育等ノ大学ヲ建テタノデアリマス。

モ政治機関ニ於ケル官吏相互ノ融和ニ付テハ、隨分注意シテ来タノデアリマス。併シ初ノ中ハ矢張リ仲々甘ク行カナカツタケレドモ漸次良クナリマシタ。ソレハ理想国家ノ建設ト云フ熱・情ヲ皆持ツテヰタコトトオ互ニ努力シテ言語風習等ヲナルベク早ク相互ニ理解シ合ハウトスル努力ノ賜デアリマシタ。又官吏ノ養成機関ニ設ケツケテ各民族ガ教室デモ食堂デモ寝室デモ常ニ起居ヲ共ニシテ居リマシタノデ十年業後官吏トナツテカラモ同期生トシテ親睦ニナリマシタ。故ニ終ニハ民族ヲ超越シテ共ニ働クヤウニナリマシタ。

現ニ私ハ十三年間ノ官吏生活デ上司ニモ同僚ニモ部下ニモ多数ノ異

民族ヲ持ツタワケデアリマスガ、他民族ダカラトテ特ニ秘密ニシタコトモアリマセンシ、差別的ニ取扱ツタコトモアリマセンガ其ノ度ニ不都合ナコトガ起ツタト云フ例ハ一度モアリマセン。或時、経済部大臣阪振澤ガ日系トカ満系トカ蒙系トカ、ハウイフ言葉自体ガイカンデ、モウソンナ区別ハ必要デナク、満洲国人トシテ全部一本デ行ケバ良イノダロトト云ツタノヲ聞イタコトガアリマスガ、大体ソウイフ気持ニナツテ参リマシタ。従ツテ終戦後離満迄ノ困難ナ一年間ノ生活デモ日満系ノ同僚友人ハオ互ニ助ケ合ツテ来マシタシ、離満ニ際シテハ長年ノ友誼ヲ謝シ、記念品ナドヲ分ケ合ツテ惜シミ惜マレテ、気持ヨク袂別シテ来マシタ。コレハ私ノミナラズ、永年満洲ニ生活シテ来タ日本人ノ満人友人トノ間ニオケル間柄ハ皆ソウデアリマス。

(七) 大臣及次長ノ給與ニ付キ申述ベマス

俸給ハ凡テ俸給令ニ定メラレテ居リマスガ例ヘバ康徳五年(一九三八年)ニ於テハ

国務総理大臣　月額　一千八百圓

Def. Doc. 1962

参議府議長　金　一千五百圓
内閣大臣總務長官　金　一千三百圓

デアリマシタガ、滿洲ノ特任官（親任官）ニハ交際手當トシテ月額五百圓ガ此ノ外ニ支給サレルコトニ規定セラレテ居リマス。

次長ハ日滿系ヲ問ハズ簡任官（勅任）デアリマシテ、簡任官ノ最高俸給ハ月額八百圓トナッテ居マシタ。ソノ他職務手當トシテ最高二百円支給サレルノデアリマス。其他ニ賞與ガ年ニ二度支給サレルノデアリマスガ、ソノ額ハ俸給ノ一ヶ月半ト二ヶ月トカソノ時マニ定メラレルノデアリマス。特任官ハ日滿ヲ問ハズ、賞與ノ代リニ皇帝ヨリ年末ニ手當ヲ支給サレルノデアリマスガ、ソノ額ハ勿論簡任官ノ二度ノ賞與ヨリハ多イノデアリマス。

滿系ノ大官ニハ、更ニ從來ノ慣習上公私ノ費用ガ多ク入要デアルト云フノデ年ニ二回夫々五千圓カラ一萬數千圓宛特別手當ガ支給セラルルコトニナッテ居リマセン。尚康德二年ト（一九三五年）ニハ當時ノ滿系大官ニ建國功勞公債トシテ多キハ四十万圓少キモ五万圓程度ノ公債ガ交付サレマシタ。コレハ年五分ノ利子ヲ附シテアリ、

Doc #962

公債ノ總額ハ八百五十万圓ニ達シテヰマス。日露デハコノ公債ヲ貰ツタ者ハ人モ居リマセン

(八) 立法院ニ付テ申述ベマス

立法院ハ組織法ニ定メラレタル法律及予算ニ關シ賛ヲ与ヘルコトヲ責務トスル立法機関デアリマスガ其ノ組織ハ別ニ法律ヲ以テ定ムル旨組織法ニ規定サレテ居リマス、ソコデ建國当初カラコノ條文ヲ如何ニスベキカガ大分問題トナツタノデアリマスガ法學博士趙恢伯ハ一九三二年三月九日立法院長ニ任命サレタノデ立法院ノ組織ヲ定メル法律ノコトデ当時ノ制局ニ種々相談ガアリマシタガ法制局トシテモ各方面ノ意見ヲ綜合シテ慎重ニ定メナケレバナラヌ問題デアリマスガ急ニハ結論ニ達シナカツタノデアリマス。当時趙博士ヤ法制局デ議論シ合ツタコトハ、先ヅ第一ニ滿洲國ハ民族複合國家デアルカラ民族別ノ代表ヲ考慮シナケレバナラヌガ如何ニシテ選定スベキカ、第二ニハ建國前カラ民間ニ勢力ヲ有シ建國後モ残テヰル商務会、農業會等ノ所謂法團ヲ母体トスル代表モ加ヘル必要ガアルト云フ点、第三ニ地域別

ノ代表モ必要デアルガ、今ノ様ナ治安狀態デ前モ民度ノ低イ所ニ一般投票ニ依ル選擧ガ果シテ可能ナリヤト云フコトガ最モ大キナ問題デシタ。ソコデ一九三二年、四月カラ五月ニカケ立法院秘書處官制ガ公布ニナリ、ソノ中デ立法院秘書處ハ立法院開設迄勢力ノ間立法院ノ組織ヲ研究シ開設準備ヲ爲スベキ旨規定サレマシタ、然ルニ一方一九三三年頃ニ憲法研究委員会ガ官制ニ依リテ出來タノデアリマスガ、趙立法院長ハソノ委員長トナリマシタ。コレハ當時ノ組織法ハソノ前文ニモアル如ク建國草創ノ際急ニ出來ヌタモノデ、本物ノ憲法ヲ立案研究スルタメノコノ委員会ガ設ケラレタノデアリマスガ、同時ニ現行ノ立法院ノ組織モ研究立案スルコトニナッテ居リマシタ。ソシテ立法院秘書處ハコノ委員会ノ事務局ノ如キ形ニナッタノデアリマス。趙院長ハ特命ヲ帶ビテ事ラソノ任ニ當リテ居リマシタガ遂ニ結論ヲ得ナイ中ニ一九三四年ノ欽辭任後ニナリマシタ。斯ノ如キ事情故一九三四年三月一日改正ノ組織法ニハ、立法院ノ機能ハ當分ノ間參議府ヲシテ之ヲ代行セシムル旨ノ規定ガ入ッテ居リマス（組織法附則）然ルニ一方兩院國ニハ協和会ガ一九三三年七月廿五日ニ成立シ民意暢達ヘ

上意下達ノ役目ヲ果スコトニナツタノデアリマスガ、コノ協和会デ聯合協議会ト云フ会員ノ代表者總会ト云フ様ナ形ノモノヲ一九三四、五年頃カラ始メテ居リ、之ガ其ノ後追々整備セラレルト同時ニ、協和會組織ソノモノガ一九三六年頃ヨリ全面的ニ拡大強化セラレマシタノデ、コノ協和会ノ聯合協議會ニ縣聯合協議會、省聯合協議会、全國聯合協議会トカ段階ガ出来、之ガ丁度縣議会、省議会、國議会ト對照シ得ル如キ作用ヲ現ハシテ来テコノ方ハ年々開カレルノデドンドン改良シ進歩スルニ立法院ハ依然トシテ準備事務デ足踏ミシテヰルト云フ風デトリ残サレテ終ヒマシタ。ソコデ立法院ト協和会ヲ法的ニ如何ニ調整スベキヤト云フ事ガ問題トナリ、一九四〇年カ四一年頃ニ出来タ法制整備委員会ノ基本法部門デ研究ヲ進メテ居リマシタガソノ成果ハ得ナイ中ニ國ガ滅ビマシタノデアリマス

(九) 日満一德一心ニ付テ申述ベマス

コノ標語ハ溥儀皇帝ノ創作セラレタモノデアリマス。康德二年四月(一九三五年)第一回訪日中ノ皇帝ノ感激ノ模様ハ當時通伴セル林出賢次郎氏

書「庵從訪日恭記」ニ詳細ニ述ベラレテアリマスガ皇帝ハ此ノ感激ヲ國民ニ永久ニ伝ヘンカ為メ同鑒後記書ヲ以ッテ公刊スル旨旅行ノ途中ヨリ仰セ出サレタシタノ。私ハ當時總務廳秘書廳長トシテ鄭總理、阪谷次長ノ命ヲ受ケテ(徐)藤總務廳長ハ皇帝ニ隨行シテ不在ノ皇帝同鑒後ノ諸行事ノ準備ヲ進メテ居タノデアリマスガ其ノ記書ノ案文ハ國務院ガ宮内府ト連絡シテ記ヤ、四月廿九日鄭國務總理大臣ガ内奏シタ處、皇帝ハ之ヲ讀ミ其ノ案文デハ、ホダ充分自己ノ本意ヲ盡シテ居ラナイトテ自ラ口述シ曰ー---朕日ク元首ニ陛下ト精神一体ノ如シ爾乗度等更ニ當ニ仰イデ此ノ意ヲ体シ友邦ト一德一心以テ兩國永久ノ基礎ヲ奠定シ東方道德ノ眞意ヲ発揚スベシー---ー---ー以下殆ド原案ノ三分ノ一位ヲ修正シテ總理大臣ニ筆記セシメタノデアリマス。而モ詔書ノミデハ尚充分自己ノ意ヲ盡シ得ナイカラトテ翌三十日実如在京ノ簡任官以上ノ文武官ヲ宮内府ニ召集シ約一時間ニ亘ッテ壇上カラ自ラ訓示シマシタガ其ノ要旨ハ東方道義ヲ說キ日鮮一德一心永久不可分ノ関係ヲ述ベタモノデ、最后ニ一段ト聲ヲ勵マシ丁寧ニ鮮洲人ニシテ日本ノ不利益ヲ図ルガ如キモノアリトセバ断シテ朕ガ

昭. 12. 12. 1962

忠良ナル臣民デハナイ。又日本人ニシテ滿洲國ノ不利ヲ図ルモノアラバ、天皇陛下ノ忠良ナル臣民ト云フヲ得ナイト結語シタノデアリマス。五月二日煥発セラレタ詔書ハ斯ノ如キ経緯ヲ経テ出ズベクモノデアリマス。

又太平洋戦爭勃発セル一九四一年十三月八日夜、參議府御前会議ヲ宮内府ニ開キ丁時局ニ関スル詔書ヲ審議シタガ、ソノ席上皇帝ハ今回ノ戦爭ヲ單ニ日本ト英米トノ間ノ戦ニアルト見ルノハ誤リデ、之ハ実ニ数百年来東亜ヲ侵冠セル欧米人ニ対スル全東亜民族ノ開放ノ戦デアル。滿洲國ハ全国力ヲ擧ゲテ日本ノ戦爭遂行ニ協力スベシ」ト述ベテ、重臣ヲ激励シマシタ。

(一) 建國神廟ニ付テ中述ベマス

建國神廟ノ由来ヲ尋ヌルニ初メ滿洲國ハ民族協和ノ國デアルカラ各民族ガ齊シク心カラ頭ヲ下ゲル様ナ精神的中心ガ欲シイト云フ論ガ一部ニ在リ、ソレニハ何ヲ祀ルカト云フ点ニナツテ極メテ難シイ問題ナノデ一時ソノ儘トナリマシタ。所ガ後ニナツテ併シソレハソレトシテ建國ノ爲ニ犠牲トナツタ各民族ノ英霊ヲ合祀シテ之ヲ護國ノ神トシテ拜スルコトニハ誰シモ異議

ハアルマイト云フ事ニナリ護國廟建設ノ議カ具体化シテ社殿ノ建設ニ着手スルコトニナッタノデアリマス。然ルニ建設半バニシテ矢張リ護國ノ神ヨリモ建國ノ元神ノ方ガ大切デアルト云フコトニナリ、ソレニハ何神ヲ祀ルベキカト云フ問題ガ再燃シ、種々議論ガアッタガ結局皇帝ノ叡意ニ基キ日滿一德一心ノ関係カラ日本ト同様建國ノ元神ハ天照大神デアルトイフコトニナッテ建國廟天照大神ヲ奉祀スルコトニナリマシタ。ソシテ従来社殿ヲ作リツツアッタ南嶺ハ天照大神ノ神廟トシテ建國忠靈廟トヲコトニナリ、コレニハ建國ノ爲犧牲トナッタ各民族ノ英靈ヲ祀ルコトニナッタノデアリマス。

而シテ國民ノ信仰ハ之ヲ強制スベキモノデナイト云フノデ地方ニ神廟ノ分廟ヲ建テルコトハ之ヲ禁止シ、神廟ハ一般國民ノ參拜ガ出来ナイ官廷内ニ建立サレタノデアリマス。又法ヲ以テ國教トシタワケデハナク、只神廟及忠靈廟ノ祭祀ヲ司ル祭官ガ必要ナ所カラ祭祀府ノ官制ヲ定メタノデアリマス。又刑法ヲ改正シテ神廟ニ對スル不敬罪ヲ規定シタ事モアリマセン。皇帝ハ實ニ敬虔ノ念ヲ以テ毎月神廟ヲ祭ッテ居リマシタ。ソレデ奉天省長代理 皆川豊治ガ參内シテ省、旅ヲ皇帝ニ報告シタ際、皇帝ガ門

宣誓書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

松本俠 (印)

教育ノ基ヲ何處ニ置イテヰルカ」トノ質問シタ、ニ対シ皆川ガ即刻ニ
八御答ヘシ兼ネテ居ルト、皇帝カラ「ソレハ惟神ノ道デアル」ト訓ニラレタコ
トモアリマシタ。又皇帝ハ國務總理大臣ヲ省長会議ノ席上ヨリ呼
ビ出シテ、省長ニ伝ヘヨトテ數頃目ニ亘ル訓令ヲ與ヘタコトガ両三
度アリマシタコトハ前ニモ申上ゲマシタ(二)皇帝ノ地位ノ項ニ於テ
ガ、ソノ冒頭ニハ「省長ハ惟道ノ道ニ遵ヒ省民ノ指導ニ當ルベシ」
ト云フ意味ノ言葉ガ常ニアリマシタ。

以上。

昭和二十二年(一九四七年)四月三日於東京

供述者　松木俠

右ノ者ハ当立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日於　立會人　阪埜淳吉

松本俠宣誓供述書

正誤表

正	誤	頁
松木俠	松本俠	表紙
「滿洲帝国帝位ハ、、、、、、、、	「滿洲国帝位ハ、、、、、、、、	三頁 三行目
專制国家デハナク、、、、、、、、	恵制国家デハナク、、、、、、、、	三頁 六行目
參議府会議ハ、、、、、、、、	參議院会議ハ、、、、、、、、	三頁 終行
——削除	軍ノ、、、、、、、、、、、、、、、、	六頁 一行目
總務廳及各部ノ次長、、、、、、、、	總務廳及各支部ノ次長、、、、、、、、	九頁 三行目
滿洲国人民タルモノ、、、、、、、、	滿洲人民タルモノ、、、、、、、、	一〇頁 三行目
參議府議長 仝	參議府議長 仝	一四頁 一行目
參議大臣總務長官 仝	參議大臣總務長官 仝	一四頁 三行目
俸給ノ一ヶ月半トカニヶ月、、、、、、、、	俸給ノ一ヶ月半トニヶ月、、、、、、、、	一四頁 八行目
康德二年四月(一九三五)、、、、、、、、	康德二年四月(一九・五)、、、、、、、、	一七頁 終ノ二行目
、、、連絡シテ起草シ、、、、、、、、	、、、連絡シテ記草シ、、、、、、、、	一八頁 五行目

東亜ヲ侵寇セル、、、、、、	東亜ヲ侵冠セル、、、、、、	一九頁 七行目
建国神廟ニ付テ、、、、、、	建国新廟ニ付テ、、、、、、	一九頁 一〇行目
神廟ニハ天照大神ヲ奉祀スルコトニ、、、、	神廟天照大神ヲ、、、、、、	二〇頁 六行目
「省長ハ惟神ノ道ニ準ヒ、、、、、、	省長ハ惟道ノ道ニ準ヒ、、、、、、	二二頁 六行目
同日 於、同所	同日 於	二三頁 終カラ二行目